



# ナンコーさんの講演会に行ってきました

この間、東京にある奈良県のアンテナショップ・奈良まほろば館で、ナンコーさんの講演会に行ってきました。

東京なんで、このコラムにようでてくる、東京のおっちゃんと一緒に。

「青木さんが、電話でナンコーさん、ナンコーさん言うから、落語家の桂南光さんかと思いました。まさか青木さんから、楠正成がでてくるとは、誰も思いませんわ」

何言うてるんや、ナンコーさん言うたら、楠公さん、つまり楠正成さんやんか。

僕の住んでる四條畷市は正成の息子、正行さんゆかりの地なんですわ。

「正行や四條畷も今の若い人、読めせんねえ。僕、日本史好きやったから、『まさつら』は覚えてましたけど『しじょうなわて』は、よう読めませんでした。正成もどうですかねえ。『まさしげ』やのうて『まさなり』と読まれてしまうかもしれません」

まあ、そんな時代かもしれないねえ。

正成は大楠公と呼ばれ、正行は小楠公と言われています。

四條畷には、小楠公の墓所や正行さん他二四人を祀っている四條畷神社などがあります。

市には四條畷楠正行の会という会があり、代表の扇谷昭さん

が、今回、東京で講演なさったんです。題して「今、四條畷で蘇る楠正行ワールド」……。

## 小学校高学年で『正行』を読めない子供はいません

扇谷さんは、一九四八年に奈良県吉野に生まれ、四條畷で育ち、二〇一二年四月に市の産業振興アドバイザーに就任しています。吉野生まれの人が、四條畷で楠正行の研究するというのいいですねえ。ここようわからない人は、奈良県吉野を調べてみてください。

そしてその年の一二月には、四條畷市観光可視化戦略が策定されています。

この戦略がなかなかのもんです。基本構想に「郷土、四條畷に対する意識の啓発を図る取り組み」として柱に楠正行を据えています。

「副読本をつくって小学校三年生の郷土学習で、四條畷の戦いを教えます。そのおかげで、今、四條畷市では小学校高学年で『正行』を読めない子供はいません」と扇谷さん。

あつ。四條畷の戦いも知らない人多いでしょうから、これも調べてみてください。たまには自分で勉強せえへんとね。



●(株)アオキ取締役会長  
**青木 豊彦** (あおき・とよひこ)

1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし、人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。現在は(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。



さて、扇谷さんは、市で楠正行シンポジウムなどを、いろいろな方を招いて行なっています。例えば去年の三月の第六回では、特別講演「美しいメロディを歌い継ぐ」というテーマで、雅楽師の東儀秀樹さんが箏ひちりきや笙しょうりゅうてき、龍笛等の雅楽器を使って美しい音色を奏でたそうです。

うまいですねえ。堅い講演ばかりでなく、こんな変化球も投げるなんて……。

また二〇一四年には、四條畷楠正行の会を発足させて、毎月勉強会したり、楠正行通信を出したりしています。おもしろいはグッズです。

扇谷さんから、扇子つくったらええわ、という声に押されて正行像賛扇子をつくっています。これ大阪人ののりやね。

さらには大阪電気通信大学の若者と連携して、絵本や「くすのきまさつらかるた」を制作したり、まさに八面六臂の活躍です。

**モノづくりを成功させるためには  
マネージメントが必要だと気づきました**

「市の主催のバスツアーも企画して開催しています。三年間で一五回行なって、延べ三五か所を訪ねました。

一回二五人の定員で、御本尊やふだん観れないものを見せてもらって、神主さんやお坊さんの講話を聞きます。

聞く方も喜ぶますが、講師も熱心に聞いてくれるので、気合が入ります。

千早城に行けばわかりますが、六八〇段、それも自然石を組んでいるので、段差の高低があり上るのが大変です。

そんなバスツアーの帰りには、やれやれと思う間もなく、楠正行検定があり、みなさんくたくたになります。が、とても喜んでもらえます」と扇谷さん。

(制作：大阪電気通信大学・総合情報学部)

たいしたもんですねえ。ええ仕掛けしています。子供には副読本やカルタで、郷土の歴史に親しみを持たせて、大人には硬軟混ぜたシンポジウムや勉強会、バスツアーで教養を高める。

最近、思うんです。僕もモノづくり一筋でしたが、モノづくりを成功させるためには、それをささえるマネージメントが大事だと、ようやく気づいたんです。

分野は違うけど、扇谷さんたちの正行を柱に据えた四條畷の戦略は、大変、勉強になりました。

「青木さん。青木さん」とまだ東京のおっちゃんがいまして。「調べたら、桂南光さんの出身地は、千早赤坂村でした。ここは大楠公の出身地でもあります。それで南光とつけたそうです。僕がナンコーさんを桂南光師匠と思うたのは、まちがいありませんでしたかねえ」  
東京のおっちゃんが負け惜しみ言うています。



●くすのきまさつらかるた